

国語	第 2 学年	坂町立坂中学校	指導者 倉本法子
単元名	文法への扉 2 「走る。走らない。走ろうよ。」		
本単元で育成する資質・能力		課題発見・解決力	主体性・積極性 自己理解・自らへの自信

1 単元について

(1) 生徒観

2「山本さんは、【鑑賞文の下書き】の 平和は世界の人々の願いで、改めてこの切手から平和の大切さを感じることができました。」には、二つの内容がふくまれていることに気づき、直すことにしました。次の条件 1 と条件 2 にしたがって書きかえなさい。

条件 1 意味は変えずに二つの文にすること。

条件 2 二文めには「できました」に対する主語を補うこと。

まず、平成 27 年 6 月に実施された広島県「基礎・基本」定着状況調査（以下「基礎・基本」と表記）において、教科全体の本校の平均通過率が 80.8%であったのに対して、上記問題の平均通過率は 41.4%であった。県平均の 34.3%を上回ったとはいえ、課題があることが分かる。主語・述語の関係性についての問題は「基礎・基本」において、他にも出題されていた。それは、「母親は、少女にもはじめて笑顔をむけて、子どもに声をかけた」の『かけた』に対する主語はどれですか。記号で選びなさい」という問題である。この問題における本校生徒の通過率は 93.7%と高かった。つまり「主語」「述語」という概念はある程度分かっている、実際に文章を書く時には主述を意識することが少ないことや、文法の知識を作文と結びつけられていないという実態がうかがわれる。

次に、平成 27 年 4 月に実施された全国学力・学習状況調査において、次のような問題が出題された。

4 形容動詞 3 形容詞 2 動詞 1 名詞	イ 大きな器の青さが私の目を引き付けた。 ← ア 大きな青い器が私の目を引き付けた。	私は伝えたい内容が明確になるように、次のアの文をイの文に変えました。イの文の方が、器の色が特に目を引き付けたことがあります。これは「青い」という①を、「青さ」という②に変えて、主語にしているためです。	四 次の文章の①と②に当てはまるものとして最も適切なものを、あとの 1 から 4 までの中からそれぞれ一つ選びなさい。
--	---	---	--

①の「青い」の品詞の識別は全国平均や県平均の両平均を上回っており、本校の正答率は 65.3%であった。しかし、②「青さ」の正答率は 27.3%であった。この転成名詞の識別の問題において、全国平均（33.7%）や県平均（29.0%）を下回っている。②に関しては「主語にしている」という情報が本文にあるにもかかわらず、生徒は名詞と識別できなかった。本校の生徒実態として、文法に課題があることが分かる。さらに、本校の前期学校アンケートにおいて「授業で、間違いを恐れず自分の考えを説明することができる。」という項目が、2 年生は 62.5%と低い。

こうしたことから、生徒の実態として、文法や自分の考えを人前で自分の考えを述べることに對して課題があることが分かる。

(2) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領国語 第2学年〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「(1イ 言葉の特徴やきまりに関する事項 (エ) 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意すること。」を受けて設定する。1年生の文法では、文節や文の成分、接続する語句、自立語と付属語や品詞分類の学習をした。それを踏まえて、自立語の用言の活用を捉えていくのがこの単元である。

単語を「活用」することは、日本語の文の構造にも大きく関わり、多様な表現をするためには押えておくべき大切なものである。また、中学校学習指導要領国語 第2の各学年の内容の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「指導計画の作成と内容の取り扱い」において「イ 言葉の特徴やきまりに関する事項については、日常の言語活動を振り返り、言葉の特徴やきまりについて気付かせ、言語生活の向上に役立てること」と明記しており、自分の言葉の特徴やきまりについて気付かせることが重要視されている。しかし、自分の授業を振り返ってみると、文法の授業では暗記や類似問題を解くドリル的な演習が中心となる傾向であった。生徒自身が言葉のきまりについて気付く、日常の言語活動を振り返る視点が欠けていたように感じる。

(3) 指導観

教え込みになりやすい文法の授業を、生徒自身が日本語の特徴を自らが発見できる面白さを味わわせ、文法への抵抗感を軽減していきたい。そのために、次の5点において指導の工夫をしていく。

- ① 導入において、「外国人の人に『着る』『切る』の違いを説明できるか」という場면을簡単に提示し、主体的に動詞の活用の分類を考えたいというような場を仕組む。
- ② 動詞の活用の種類の分類を、生徒自ら分類の基準を考え、その根拠を考えさせる。
- ③ 4人グループの少人数にすることで、自分の意見を話しやすい場を設定する。
- ④ 話し合いにおいて、付箋やY字やX字等のシンキングツールを活用し、分類の過程が見えるようにする。
- ⑤ 間違った日本語の使用例について、「気をつけたい日本語新聞」を作ることによって自分の言語生活を振り返る機会を設ける。

2 単元の目標

- 用言の活用に興味を持ち、用言の活用について理解することができる。
- 今まで学んできたことをもとに、意見が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて新聞を書くことができる。

3 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べることを通した指導		
○ 用言のグループ分けに関心を持ち、積極的に4人グループで話をしようとしている。	○ 相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことができる。(ウ)	○ 用言の活用について理解することができる。(伝国イエ)
○ 自分の言語生活を省み、新たな課題につながる振り返りが書こうとしている。		

4 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

「間違いをおそれず、自分の考えを相手に伝え、前向きに活動に取り組む生徒」(ゴールの生徒の姿)

【スキル】課題発見・解決力

①工夫された課題の提示によって、興味・関心をもち、課題を自らのものと捉える。

②既習の知識や経験を結びつけ、解決の見通しをもつ。

【意欲・態度】主体性・積極性

①他者と意見交換しながら答えのない問題に取り組む意欲をもつ。

【価値観・倫理観】自己理解・自らへの自信

①解決された内容について、相手意識をもって、自分の考えを相手に伝える。

5 指導と評価の計画 (全5時間)

時間	学 習 内 容					評価規準 (評価方法)	資質能力の評価 (評価方法)
		関	書	言			
1 (本時)	課題の設定 ○「着る」「切る」の活用の違いから動詞の分類に興味を持つ。 情報の収集 ○動詞の単語が三つに分けられることを知る。 整理・分析 ○動詞を3つに分類し、何の基準で分けたかその基準を説明する。 ○「着る」「切る」という言葉を、外国人に対して違いを説明する文を書く。	◎	○			動詞のグループ分けに関心を持ち、積極的に4人グループで話をしようとしている。(行動観察) 外国の人に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことができる。 (行動観察・ワークシート)	【スキル】 課題発見・解決力 ①(行動観察) 【意欲・態度】 主体性・積極性① (行動観察・ワークシート)
2	情報の収集 ○分類した動詞の活用パターンを知る。 ○例外であるサ行変格活用・カ行変格活用を知る。	○		◎		動詞の活用について理解することができる。 (行動観察・ワークシート)	【スキル】 課題発見・解決力 ②(行動観察・ワークシート)
3	情報の収集 ○形容詞・形容動詞を分類する。 ○分類した形容詞・形容動詞の活用パターンやその名称を知る。		○	◎		形容詞・形容動詞の活用を理解することができる。 (行動観察・ワークシート)	【スキル】 課題発見・解決力 ②(行動観察・ワークシート)

4	整理・分析 まとめ・創造・表現 パフォーマンス課題： 身近にある間違った日本語の使用例について、「気をつけた い日本語新聞」を作る。	○	◎	日本語の誤用について効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことができる。 (行動観察・ワークシート)	【価値観・倫理観】 自己理解・自らへの自信① (行動観察)
5	ふりかえり ○言語生活を振り返る。	○	◎	自分の言語生活を省み、新たな課題につながる振り返りを書こうとしている。 (行動観察・ワークシート)	【スキル】 課題発見・解決力 ①(行動観察・ワークシート)

6 本時の学習

(1) 本時の目標

- 動詞のグループ分けに関心を持ち、積極的にグループで話をしようとしている。【関心・意欲・態度】
- 外国の人に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことができる。(書く ウ)

(2) 本時の展開

	学習内容	授業システム	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆）	評価規準 教科の指導事項（○） 資質・能力（★） (評価方法)
導入	1 「着る」「切る」という活用の変化が違う同音の言葉を見る。 『着る』『切る』という同音の言葉。 外国人にこの言葉の違いをどう説明しますか。」	①②③ ④	◆「着る（きる）」「切る（きる）」と書いてある短冊を黒板に貼る。 ・生徒は、意味の違い，アクセントの違いにだけ注目しがちである。「ます」をつけ、活用の違いがあることにも注目させる。	★【スキル】課題発見・解決力① 工夫された課題の提示によって、興味・関心をもち、課題を自らのものと捉える。 (行動観察)
	めあて：自分で考えた基準で、動詞を三つのグループに分けることができる。			

展 開	2 動詞（勝つ 負ける 聞く 見る 開ける 飲む 起きる 考える 閉じる）のグループ分けを試みる。 「自分で考えた基準で、動詞を三つのグループに分けてみよう。」 「これらの動詞は実は、変化の違いで三つに分けられます。どんな基準で三つに分かれるだろうか。」 3 自分が考えた基準を基に、4人グループで話し合い、再考する。 「今度は、個人で考えた基準を4人グループで確かめよう。」	⑤ ⑥	◆個人で考えさせた後、4人機にさせ、少人数グループで動詞はY字チャートでグループ分けをさせる。 ・勝つ 負けるなど、対義語や単語の意味で分類しようとする生徒が多くいると想定する。その場合、今回取り上げるのは意味ではないことを指摘する。 ◆ヒントで「ない」という言葉を与える。	○動詞のグループ分けに関心を持ち、積極的に4人グループで話をしようとしている。（行動観察） ★【意欲・態度】 主体性・積極性① 他者と意見交換しながら答えのない問題に取り組む意欲をもつ。（行動観察）
ま と め	4 Aが五段活用、Bが上一段活用、Cが下一段活用であることを知り、めあてである本日の課題に挑戦する。	⑦ ⑧	〈B基準〉 「着る」は<u>上一段活用の動詞</u>、「切る」は<u>五段活用の動詞</u>で、同じ読み方だが活用（変化）のパターンが違う。そのため、着ない・切らないといった違いも起こる。また、<u>単語の意味が違い</u>、<u>アクセントも違う</u>。	○意見が外国の人に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことができる。（行動観察・ワークシート）
まとめ：自分で考えた基準で、動詞を三つのグループに分けることができた。				
	③			

7 準備物 単語カード（グループ用）、ワークシート、短冊

8 板書計画

まとめ

自分で考えた基準で、動詞を三つのグループに分けることができた。

C

グループの動詞＝下一段活用

B

グループの動詞＝上一段活用

A

グループの動詞＝五段活用

めあて

自分で考えた基準で、動詞を三つのグループに分けることができる。

勝つ **負ける** **聞く** **見る** **開ける** **飲む** **起きる** **考える** **閉じる**